



京大探偵団

国会図書館にらいふすてーじが!?

—らいふすてーじが国会図書館に所蔵されているらしい。

このような情報がこのたび京大探偵団に入ってきた。

「らいふすてーじが国会図書館にあるって？ 早速調査開始だ」

探偵君はまず最初にNDL (National Diet Library) OPACで「らいふすてーじ」を検索してみた。しかし検索には引っかからない……。

「どうしてだろう？ やっぱり置いてないのだろうか？」

実はこの時、探偵君は「和文書検索」をかけていたのだ。国会図書館にはかなりの数の蔵書がある。そのため、和図書と和雑誌は別々の検索をしなくてはならないのだ。

「えーと、あ、あったー!!」

「和雑誌検索」をしてみると、らいふすてーじは確かにOPACに載っているではないか。

「うーん、やっぱり実際に東京に行って現物を確かめてみたいなあ。よし、東京まで調査に行こう」

「お前単に東京に遊びに行きたいだけだろう」

同僚の探偵君はそう呟いた……。

東京へ調査に行くのか遊びに行くかはともかく、探偵君は早速国会図書館へ取材のアポを取り、一路東京へと向かったのであった。



▲広い書庫に本がずらりと並ぶ。これが地下8階まで続く。

はみだし
すてーじ

この雑誌、古本屋さんで売れるかなあ？
⇒古本屋さんにはないですねえ。国会図書館にはあるけど……。

ある春の晴れた日、探偵君は国会図書館のある東京・永田町に降り立った。周りには国会図書館や最高裁判所、政党本部などが立ち並び、まさに日本の中枢といった感じだ。

警備員の人に要件を告げ、担当の人の案内で館内を見て回る……。

国会図書館で本を借りる時の方法はまず、目録ホールというところで借りたい本をコンピュータで調べ、それを職員の人に頼んで書庫から運んできてもらうという方法になっている。そのため、閲覧者が入れる共有スペースには普通の図書館のような本棚がずらっと並んでおらず、広々としている。



▲国会図書館の正面カウンター。ここで本の貸し出し、返却を行う。

らいふすてーじを確認するために書庫に案内してもらう。国会図書館には本館と新館があり、なんと新館の書庫は地下8階までである。本館・新館合計で1200万冊所蔵できるそうだ。らいふすてーじがあるのは新館の地下1階。開館前の取材だったので、書庫内はほとんど人がいなかったが、普段は本を取りにいく職員の人たちが忙しく働いているそうだ。「ここです」

意外とあっさりで見つかった。本棚にらいふすてーじは並べられていたのだ。「最近のものはこうしてそのまま置いてありますが、薄い雑誌類はある程度たまってくと製本していきます」



▲創刊以来のらいふすてーじが製本されている

製本してあるものは別の場所に保管してあるそうだ。そちらの方に移動する。何年か毎にまとめられて、創刊以来のらいふすてーじが保管してあった。探偵君はそれを見せてもらう。

「へえ。昔と比べると今はだいぶ変わったんだなあ。縦書きだったんだ」

ところで「らいふすてーじ」という無料の機関誌まで収蔵しているのはどうしてなんだろう。探偵君は不思議に思った。「実は国会図書館法という法律があります。国内で発行されたものはすべて国会図書館に集めるということになっています」

担当の人はそう説明してくれた。また、外国の書物については日本の書物との交換で外国から譲り受けたり、分野を絞って収集しているそうだ。

国会図書館は東京だけでなく、関西にもある。東京本館だけでは蔵書スペースが間に合わなくなる事がわかっているからだ。予約をしておけば東京本館にある本も関西館に送ってもらえるし、国会図書館と協定を結んでいる全国の図書館にも、コピーを送ってもらえるとのことだ。なにかこれから難しい調査があったときに利用してみようかと密かに思う探偵君であった。

(理・1 めめんともり)
(東京は遠かった；編)